

〔研究ノート〕

## 戦後台湾国民小学の道德教育

Taiwan's Moral Education of Elementary School After World War II

山 田 美 香

Mika YAMADA

---

*Studies in Humanities and Cultures*

---

No. 29

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 29号

2018年1月

**GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES**

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

JANUARY 2018

〔研究ノート〕

## 戦後台湾国民小学の道德教育

### Taiwan's Moral Education of Elementary School After World War II

山田 美香  
Mika Yamada

はじめに

1. 戦後の課程標準
2. 1950年の課程標準
  - 2.1 1952年国民学校課程標準総綱
  - 2.2 1957年国民学校課程標準
  - 2.3 1957年実践的な道德教育
3. 1960年代の課程標準
4. 1970年代の課程標準
5. 1990年代の課程標準
  - 5.1 1990年代の変化
  - 5.2 1994年国民小学課程標準
6. 「道德と健康」科の課程標準
7. 「道德と健康」科の教科書
8. 「道德と健康」科の評価

おわりに

**要旨** 本稿は、戦後台湾国民小学の道德教育の歴史を「課程標準」を中心に議論を進めた。1980年代後半から教科書作成方法が変わり、「道德」という文言が入った最後の科目「道德と健康」科（1996－2004実施）について、先行研究を踏まえ、課程標準、教科書、評価を紹介した。本稿は、時代とともに、台湾の道德教育に関わる教科書とその内容が大きく変化したことを再考し、それに対する先行研究を整理した。戦後台湾における道德教育と政治との関係は根強く、その関係性ゆえに道德教育は政治性から離れることができなかった。

**キーワード**：台湾の道德教育, 課程標準, 公民と道德, 道德と健康

はじめに

本稿では、台湾の道德教育の流れについて、「課程標準」（学習指導要領）について論じ、同時に、1996年から実際に行われた「道德と健康」について、「道德」と「健康」が一緒になったカリキュラムでどのような教育が行われたのかを明らかにする。特に、「道德」と「健康」が一つの科目となることに、どのような特性があるのかを述べたい。「健康」は小学低学年から自分の健康を

大事にするという点では重要であるが、「体育」「健康」ではなく、あえて「道徳と健康」として子どもを指導する背景についても論じたい。

戦後の道徳教育史については、李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）、邱慧玲「我國小學道德科課程標準之演變及其內涵研究（1949-1997）」（臺東師範學院教育研究所碩士論文，1999）が、道徳の「課程標準」について論じている。

台湾では道徳教育が公民教育と共に行われることが多く、李宛愷（2014）が、公民概念研究において、「公民と道徳科、公民訓練科、生活と倫理科」について触れ、戦前戦後の日本と台湾の公民意識の比較研究をしている<sup>1</sup>。そのため、初等教育における「公民訓練」の内容について論じているが、「公民と道徳科」「生活と倫理科」について先行研究の紹介をしているのみで、初等教育の道徳教育については、ほとんど議論していない。

本稿では、1996 - 2004 年「道徳と健康」科について紹介するが、これに関わる研究も多くみられる。『84 學年度國民小學新課程道德與健康科檢討會專輯』は、「道徳と健康」が小学で新設された際の議論がまとめられている。顔秉璵（1998）は、台湾の道徳教育において中心的な役割を果たした人物であるが、彼による研究発表も多い。日本においても、浜島京子・富田美恵子・黒川衣代（2001）<sup>2</sup>が、健康教育を中心に、「道徳と健康」について紹介をしている。

道徳教育として、「生活と倫理」科も行われていたことから、道徳教育の重鎮的存在でもあった張鎧焜<sup>3</sup>が、1975 - 1989 年の「生活と倫理」教育課程のあり方について述べている。

このように「道徳」という科目以外に道徳教育と重なる内容も多く、社会学習領域における道徳教育の研究もある<sup>4</sup>。

以上の点から、戦後台湾において、道徳教育がどの科目で実施されるのかは変わっていくが、「道徳教育」と「健康教育」が重視されたことの意味を理解することが、今回の研究目的である。『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』（2014）、張鎧焜（2015）を参考にしつつ、國家教育研究院教科書図書館で収集した「課程標準」・教科書を中心に報告をしたい。國家図書館電子資料庫にあるデータから、1950 年代から 1960 年代教育に関して、どのような新聞記事があったのかも紹介したい。

## 1. 戦後の課程標準

戦後、國民小学における道徳教育の科目は次のように変更したが、「道徳」科あるいは「倫理」科が 2000 年まで続いたことが分かる。1962 年國民学校課程標準（1962 - 1973）において「公民と道徳」、1993

<sup>1</sup>李宛愷「日本・台湾における「公民」概念に関する比較研究：公民教育の政治的背景を中心に」筑波大学博士論文，2014 年，pp.66 - 82。李は、「藍順徳（1985）、歐用生（1996）は公民科、公民與道徳科、公民訓練科、生活與倫理科、三民主義科などの教科の内容を分析し、これらの教科は、伝統、服従、遵法、國家、領袖、漢民族、男性などのイデオロギーに偏重する傾向にあると指摘した」（p.68）と述べている。

<sup>2</sup>浜島京子・富田美恵子・黒川衣代『『家庭科』、『健康教育』に対する教科観及び学習者の家庭生活実態：日本、台湾、アメリカの中学生の比較』『福島大学教育実践研究紀要』41, 2001 年，pp.93-100。

<sup>3</sup>張鎧焜「國小生活與倫理教科書德育課程觀之轉變——從 64 年課程標準本到 78 年改編本」『教科書研究』2015 年，8 卷 3 期（Vol.8, Issue 3），pp.77-111。

<sup>4</sup>廖偉民「國小社會學習領域教科書中道徳教育之內容研究」（2005）國立臺東大學教育研究所課程與教學組碩士論文。

年国民小学課程標準（1996 - 2004）において「道德と健康」と、「道德」という科目があった。

1962 - 1973 年「公民と道德」以降は、1968 年国民小学暫行課程標準（1968 - 1983）「生活と倫理」「健康教育」と、生活のなかで倫理教育を行うことが中心となった。「健康教育」は、「生活と倫理」に次いで重要な科目であった。結局、1970 - 80 年代、国民小学で「生活」「倫理」「健康」が重要とされるが、そのあと、1996 - 2004 年「道德と健康」に、これらの科目はまとめられる。「生活と倫理」は「道德」に、「健康」はそのまま「健康」に移行する。

2000 年「国民中小学九年一貫課程暫行綱要」（2001 - 2010）からは、1968 年からの「生活と倫理」の「生活」が改めて科目名となり、「健康」は「健康と体育」となった。以上の点から、戦後台湾の国民小学において、「道德」「健康」「生活」教育が絶えず重視されてきたのが特徴である。

表 1 課程標準の改訂時期

1948 年	小学と中学の課程標準	「公民訓練」「社会」
1952 年	国民学校課程標準総綱	「国語」「社会」の 2 科目を改訂
1962 年	国民学校課程標準 1962 - 1973	「公民と道德」（生活規範、衛生習慣、基本道德、公民知識）、14 の徳目。「劳作」「団体活動」
1968 年	1968 年国民小学暫行課程標準 1968 - 1983	九年国民教育暫行課程標準。「生活と倫理」「健康教育」「生活品德を主とし、20 の徳目に増加。毎日指導時間があり、毎週 120 分の指導時間」。
1975 年	国民小学課程標準 1977 - 1990	「生活と倫理」「健康教育」「団体活動」「輔導活動」「生活規範・健康指導」「習慣養成から観念の養成に至る品德教育教材」「18 の徳目で 2 週間に 1 徳目を学ぶ」。
1985 年	改訂 1975 年国民小学課程標準 1982 - 2001	「生活と倫理」「健康教育」「輔導活動」
1989 年	改訂 1975 年国民小学課程標準 1989 - 2001	「生活と倫理」
1993 年	国民小学課程標準 1996 - 2004	「道德と健康」「輔導活動」
2000 年	国民中小学九年一貫課程暫行綱要 2001 - 2010	「生活」「健康と体育」「総合活動」
2003 年	国民中小学九年一貫課程綱要 2004 -	「生活」「健康と体育」「総合活動」
2008 年	国民中小学九年一貫課程綱要 2011 -	「生活」「健康と体育」「総合活動」

出典 李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）, pp. 39-40。國家教育研究院教科書圖書館。山田美香「戦後台湾の道德教育改革の流れと戦前の修身教育に対する評価」『学校・家庭・地域連携型道德教育推進プログラムの開発に関する総合的研究』研究会（2013年3月21日, 於：昭和女子大学）における資料（ただし、それ以外で配布・公開はしていない）。國家教育研究院教科書圖書館では、1985年「改訂1975年国民小学課程標準」は、1982年から2001年まで用いていたと記されている。

## 2. 1950年代の課程標準

1948年改訂「小学と中学の課程標準」は、中国大陆に、まだ国民政府があった時期の課程標準であるが、台湾に移った後も同じ「課程標準」が実施された<sup>5</sup>。

『品德教育融入十二年国民基本教育課程之研究期末研究報告』（2014）は、1948年改訂課程標準について、「公民訓練を行うこと、知識としての『公民』を重んじることが重視され、総綱のなかで『公民訓練』がすべての科目の筆頭教科となり、その地位は重要なものであった」<sup>6</sup>という。ただし、「公民科」があるわけではなく、「社会科」に公民の知識を入れたことで、「独立した課程綱要と教科書」があった<sup>7</sup>。「公民訓練の内容は、固有の道德、新しい生活規律、現代の国際道德觀念の3つを含み、15の項目が見られた」が、「黨員十二則」から来たことで「政治的な影響が大きかった」ことが述べられている<sup>8</sup>。訓練については「公民訓練」があったが、知識の面では「社会」科で公民に関することが教えられたのである。

1952年、国民学校課程標準総綱が出され、それは、小学の場合、これまでの課程標準の改訂が2科目で行われたものであった<sup>9</sup>。「中央政府が台湾に暫時移動駐在した際、この課程標準は、先に台湾一省で実施することができた。二年の試行結果を経て、『国語』と『社会』2科目の課程標準が、まだ現在の『反共産党抗ロシア』の基本国策及び『勘乱建国教育実施綱要』と密接に対応していない」<sup>10</sup>ということから、1952年になって改訂がなされた。「この教科書は、公民教育の目標は、人民の権利を強調するが、しかし教科書の内容はさらに人民の国家に対する義務を強調するものであった」<sup>11</sup>と、政治的影響が公民教育、教科書に大きく影響を与えていたのである（『品德教育融入十二年国民基本教育課程之研究期末研究報告』（2014））。

1950年代当初は、民族精神教育の強化が言われ（聯合報, 1952年9月20日）、訓導計画が定められた（聯合報, 1952年9月11日）。子どもの教育は精神教育が中心であり、子どもは、指導される立場にあった。教育部が改訂した小学課程標準においても「反共産党抗ロシア」の教育が重視された（聯合報, 1952年6月28日）。そのため、「公民の知識」というのも、民族精神教育が中心であるという事実があった。

<sup>5</sup>李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）, pp.30-31。

<sup>6</sup>同上, p.31。

<sup>7</sup>同上。

<sup>8</sup>同上。

<sup>9</sup>同上, p.32。

<sup>10</sup>同上。

<sup>11</sup>同上。

民族精神教育は、統琨『中華民族精神綱要』（1979）において、「民族精神を発揚し、民族の危機を救い、民族の地位を回復するために、民族精神教育実施の必要がある」、また、「句踐の『明恥教戦』、管子の『四維』も民族教育を実施するものである」<sup>12</sup>と、民族精神を、中国の伝統的な民族意識、現在の台湾の反共産党・反ロシアとの関係を国父孫文、蒋介石の言葉とともに教育に示したものであると書いてある。「四維」は「礼義廉恥」，「八徳」は「忠孝仁愛信義和平」<sup>13</sup>とされる。

このような思想的背景をもとに、台南では、「県市の各教育科督学、国民学校股長<sup>14</sup>を招集し、国民学校教科書審査会議を開いた」（1952年6月28日、聯合報）という。政治的に教育機関が一つの思想に向かって子どもを教育することに動いていたのである。

## 2.1 1952年国民学校課程標準総綱

この時、「国民学校の学科は、国民学校及中心国民学校規則第五条の規定で、公民訓練、音楽、体育、国語、算術、社会、自然、美術、労作の9科」<sup>15</sup>であった。

1952年「国民学校課程標準総綱」においても、「公民訓練」が最も重要な科目で、科目の目標において、「忠君愛国」という徳目が最初に出てきた。「忠君愛国」が重視されたのは、「清末の読経・修身、民初からの修身・公民・衛生・各学科の中で、徳・衛生は必ず行うべきものであった」<sup>16</sup>ということから、単に訓練をするというのではなく、「徳・衛生」について徹底して精神面として理解し、生活習慣とすることができることを考えたものである。当時の「公民訓練」の目標は、以下のものである。

### 「公民訓練」第一目標

一児童の忠君愛国、協力団結等の公民の基本精神に関することを養成する

二児童の清潔身だしなみを整える事、礼を守り恥を知る等の公民の良好な習慣に関することを養成する

三児童の人民の権利責任、人類に対する親愛、国際協力等の公民の正確な観念に関することを啓発する。

## 2.2 1957年国民学校課程標準

1957年国民学校課程標準では、「総綱」において、国民学校における教育のあり方を述べている。

「一、国民の道德の養成」について<sup>17</sup>において、「1. 中国民族固有の国民道德の発展」「2. 愛国意識と大同の理想（思想）を養成する」と、中国で派生した道德が、台湾においても重要な道德であるという理解がなされていた。また、国民学校（小学）において、「国民道德・愛国意識・大

<sup>12</sup>1979年統琨『中華民族精神綱要』中央文物供应社,p.3。

<sup>13</sup>同上,p.8。

<sup>14</sup>組織の名称として「課」レベルの「股」があり、「股長」は「課長」レベルだと考えられる。

<sup>15</sup>1952年「国民学校課程標準総綱」,p.2。

<sup>16</sup>同上,p.3。

<sup>17</sup>「1957年国民学校課程標準」,p.1。

同思想」が最も重要な徳目であった。「二. 心身健康の訓練」「三. 生活に必要な基本的知識技能を授ける」と、「徳」以外の「体」「智」も必要な教育内容として示されているが、あくまで、「民族教育・愛国心教育」という教育に次ぐものであった。

これまで、「徳」と「体（衛生）」が重視されてきたが、「徳」が「心身の健康」よりさらに重視された。

## 2.3 実践的な道德教育

1957年国民学校課程標準の巻末には、「道德等の実践は、指導せざるを得ないので、ある小学は訓練事項を条目に編成し、実施指導した。委員会は、この方法を修身より良いところが多いものと認め、各学校の訓練条目を集め、集めた物を整理し、公民訓練標準を編成した。加えて、小学課程標準の中に入れ、小学訓育実施の重要な根拠とした」<sup>18</sup>と、国民養成は訓練されるもので、「公民訓練」で修身を実践的に学んだと書かれている。本を読んで徳目を理解するということより、外に出て実践的に徳目を学ぶことを選んだのである。さらに、「団体訓練（訓育と衛生訓練を含む）及び体育科の教育時間も増やした」<sup>19</sup>と、これまでの経験から、訓練項目が詳細に説明され、体育の授業時間数が増えることも加わった。団体訓練は、その後も、台湾の小学における道德教育の「訓練」として行われた。

1950年代後半には、小学（高学年）においては、童軍教育が行われた（1958年7月5日、聯合報）。「生活教育」という名称で生徒指導も行われたが、同時に「訓導」、つまり厳しく児童に指導をすることも行われた（1957年6月2日、聯合報）。この「生活教育」と「訓導」の区別は実質あるわけではないが、言葉の面では、それぞれ教育目的・方法が異なる。実際のところは児童に対する指導方法が同じく厳しいものであった。

顔秉璵（1998）は、1994年「国民小学課程標準総綱」に関連して「生活教育は道德教育の規範に合うことを条件とする。さもないければ、理想的な生活をする事ができない」<sup>20</sup>と言っているが、この考え方は、1950年代にも見られ、生活のなかで道德性があることが要求されたといえる。

## 3. 1960年代の課程標準

1961年改訂国民学校課程標準草案が、その後、1962年に「改訂小中学課程標準」が出された。まず、1961年の草案をみても。

### 1961年 改訂国民学校課程標準草案

国民学校課程の目標は、「国民道德の養成」「心身の健康の訓練」「生活に必要な基本知識技能を

<sup>18</sup>同上、巻末。

<sup>19</sup>同上、p.179。

<sup>20</sup>顔秉璵「我国国民小学道德教学新發展趨勢」教育部人文及社會學科教育指導委員會編印『公民與道德教育之趨勢』1998年、p.45。

授ける」<sup>21</sup>こととした。1957年版と変わらない目標である。この草案における科目は、「公民と道德、音楽、体育、美術、劳作、国語、算術、社会、自然等の九科と団体活動」で、「公民訓練」がなくなり、「公民と道德」が重視される科目となった<sup>22</sup>。

その背景は、「1948年、この二種『訓育』『衛生訓練』標準を合併して、『公民訓練』という元の名前に戻した。今回の改訂で、『道德教育の実施』を強化し、『公民』の知識行為が融合貫通されるため、社会科の『公民知識』部分と『公民訓練』を合併して、『公民と道德』に改めた。その内容は、1. 基本道德と公民知識、2. 生活規範と衛生習慣である」<sup>23</sup>と説明されている。「公民知識」が単なる知識に終わらず、「公民訓練」と合併し、そこに道德も強化されることが科目に求められた。

この改訂「公民と道德」課程標準草案の目標は、「1. 児童の道德觀念を養成し、よき品性を陶冶し、民族固有の美德を発揚する」「2. 児童の優れた習慣を養成し、応対すべき礼、進退の方法、起居規律、保健衛生について知らせ、日常生活行為の基礎を定める」「3. 児童が現代の公民知識を獲得するよう指導し、楽しく協力させ、法を守り責任を負い、個人が社会・国家に対する貢献をすることを望む」と、「民族」の概念のみではなく、「民族」を超えた「道德觀念の養成」「品性の陶冶」が重視された<sup>24</sup>。そうはいつても、「民族意識」が道德教育のなかでは国家としては重視すべきものであった。

1962年、改訂「小中学課程標準」では、「小学は、国家の民族意識と国家の建設発展を強化する課程」と、「民族意識」の強化が中心となり、「『生活規範』『衛生習慣』『基本道德』『公民知識』の4つの面を包括し、実践、知識を与えるものとした」（『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』、2014）<sup>25</sup>。草案で提案されたように、「『公民訓練』と『公民知識』を合併して、『公民と道德』科目とした」<sup>26</sup>のである。

1968年6月8日、台北市の9年国民教育実施が市政會議を通過した（1968年6月8日、聯合報）。と同時に、生活規範教育、生活倫理教育、公民道德課程が重視されることが示された（1968年6月8日、聯合報）。道德教育では、「生活体能倫理道德民族精神教育」という、子どものあるべき姿を目指す教育が考えられた（1968年9月9日、聯合報）。

1968年9月から、九年制国民教育が実施され、「1962年の9科目から1968年は14科目」<sup>27</sup>となった。1968年「国民小学と国民中学暫行課程標準」は、「生活品德教育を主とする」ものとなり、1962年の「健康教育も包括した」<sup>28</sup>という点は薄くなったようにも思える。

<sup>21</sup> 「1961年改訂國民學校課程標準草案」,p.1。

<sup>22</sup> 同上,p.2。

<sup>23</sup> 同上,p.3。李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）,p.33にも書いてある。

<sup>24</sup> 「1961年改訂國民學校課程標準草案」,p.13。

<sup>25</sup> 李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）,p.34。

<sup>26</sup> 許義宗『公民與道德故事集（低年級）』青文出版社,1965年,p.1。

<sup>27</sup> 同上,p.35。

<sup>28</sup> 同上。



#### 4. 1970年代の課程標準

1970年代においても、民族精神教育は政府の中心的な課題であった。臺灣省政府教育庁『加強實施民族精神教育作業計劃彙編』（1976年）では、1975年「臺灣省加強實施民族精神教育實施方案」によって、どのような民族精神教育計画を立てたのか、多くの国民小学の具体的な教育計画が示されている。法令に基づいて、学校で民族精神教育をする必要が出てきたのである。

##### 1975年国民小学課程標準（1975年8月7日制定公布，1978年実施）

1975年国民小学課程標準では、「生活と倫理、健康教育、国語、数学（珠算を含む）、社会、自然科学、音楽、体育、美勞、団体活動、輔導」と、「生活と倫理」「健康教育」が重視された<sup>29</sup>。張鎰焜（2015）は、蔣中正が道德教育を重視したことから、「生活と倫理」科ができたこと<sup>30</sup>、「生活と倫理」科は、「德育課程觀が生活規範と伝統倫理価値觀の養成と実践に傾いた」<sup>31</sup>ものだと書いている。

国民小学課程標準総綱には、「国民小学教育は、活潑な児童、堂々たる国民を養成することが目的である。国民道德の養成を重んじ、心身健康の鍛錬をし、生活に必要な基本知能を増進させる」<sup>32</sup>と、その目標が書いてある。「国民道德の養成」という点では、「国家民族意識を強調するため」「生活習慣から出発し、民族の美德、愛国反共精神を重視する」<sup>33</sup>という目標は変わっていないが、方法論として「日常生活」「生活習慣」から教育を行うものとされた。

「生活と倫理」は、「1-3年で生活と倫理、健康教育は120時間、4-6年で200時間」<sup>34</sup>であった。「生活と倫理及健康教育科目」は、「1-6年まで毎週120分、6回に分けて毎回20分、月曜日から土曜日午前1回で、生活規範、道德行為、健康習慣について指導をする。4-6年は、毎週40分の授業を別に実施し、関連する知識関連の教育を分けて行う」<sup>35</sup>ということから、4-6年生は授業時間の確保をしたが、1-3年生は授業時間ではなく、学校教育のなかで必要な時間がとられたのである。

ただ、その必要な時間をとる場合は少なく、范信賢（1997）は、「毎日20分、朝会で行われることもなく、教師はクラスのことやその他の用途に使っていた」「『生活と倫理』、『健康教育』の教科書の知識は、児童は試験で100点を取るが、しかし、生活のなかで、それを行うことはしない」<sup>36</sup>という。

ここから、「生活と倫理課程標準」と「健康教育課程標準」で示されたものが十分実施されなかったことが分かるが、以下に、「課程標準」について説明したい。

##### 生活と倫理課程標準

<sup>29</sup> 「1975年国民小学課程標準」, pp.1-2。

<sup>30</sup> 張鎰焜「國小生活與倫理教科書德育課程觀之轉變—從64年課程標準本到78年改編本」『教科書研究』第八卷第三期（2015年12月）pp.77-111。

<sup>31</sup> 同上, p.90。

<sup>32</sup> 同上, p.1。

<sup>33</sup> 李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）, p.36。

<sup>34</sup> 「1975年国民小学課程標準」, p.6。

<sup>35</sup> 同上。

<sup>36</sup> 范信賢「國小道德與健康科行為實踐教學討論」台灣省國民學校教師研修會編印『道德與健康課程與教學研究專輯』第一輯, 1997年5月, p.82。

### 総目標

1. 児童の学習起居規律, 社交礼儀, 日常生活に必要な優れた習慣を指導し, よりよい行為を基礎とするよう定める。
2. 児童が親や年寄りを敬い, 友達とよくし, 集団を楽しみ, 人と関わる時は必ず正しい態度とするよう指導し, 民族固有の美德を発揚する。
3. 児童の倫理観念を発展させ, よりよい品格及び公民に必要な高尚な情操を発展させ, 愛国反共の精神を激しく持つようにする。
4. 児童が習慣を養い, 観念を建立し, 知識を充実させ, 行為を改善し, 気質を変化するよう指導し, 正々堂々たる国民を養成する<sup>37</sup>。

#### 1, 2, 3 年の目標

1. 児童の日常生活のなかで, 各生活規範を遵守し, 優れた習慣と良好な行為を養成するよう指導する。
2. 児童の生活環境で養成し, 各基本道德を実践し, 合理的な観念と善良な品格を養成する<sup>38</sup>。

1975 年国民小学課程標準は, 「四維八徳及び『新生活運動綱要』の, 『孝順』『友愛』『礼節』『勤学』『合作』『守法』『勇敢』『公德』『愛国』『信實』『睦隣』『節儉』『負責』『知恥』『寛恕』『有恒』『正義』『和平』の十八の徳目を, 児童の実際の必要によって, 個人, 家庭, 社会, 国家, 世界等の順序で編成し直す」と, これまでの「四維八徳」「新生活運動」をもとにしたもので, 児童に分かりやすく自分の身近な小さい世界から, より大きな世界へと考えを広めていくという方法をとった<sup>39</sup>。また, 「『行為実践』と『観念の養成』両項目の規定あるいは細目は, 各学校が生活環境の実際の必要に照らして, 参酌運用する。ただし, 総目標に合うようにする」<sup>40</sup>と, 具体的な細かい規定については, 各学校が児童にとって必要な教育をするものであった。「健康教育課程標準」は, 次のとおりである。児童が必要とする健康教育の目標が書かれている。

### 健康教育課程標準

#### 総目標

1. 児童が心身の健康的な習慣と態度を養成することを指導し, 日常生活のなかで健康的な生活を実践することができるようにする。
2. 児童が健康の知識を獲得することを指導し, 現代の生活に適した能力を備えるようにする。
3. 児童の基本的な健康に対する技術能力を学習することを指導し, 個人および他の人の健康と安全を守るようにする。

<sup>37</sup> 「1975 年國民小學課程標準」, p.15。

<sup>38</sup> 同上, pp.15-16。

<sup>39</sup> 同上, p.17。

<sup>40</sup> 「1975 年國民小學課程標準」, p.41。

4. 児童が科学的な健康観念を建立するよう指導し、個人の家庭、学校、社会に対する健康的な生活との関係と責任について認識するようにする<sup>41</sup>。

「1989年に改訂された生活と倫理」は、「1975年の国民小学課程標準に依拠しているが」「児童中心の教科書内容、形式、活動中心の教育方法を含めて、大幅な改革を進めた」<sup>42</sup>ということから、1970年代とは求めるものが大きく異なった。

張鎧焜(2015)は、「1989年改編本『生活と倫理』教科書は斬新な版本で、その内容と形式は大幅に改編された」<sup>43</sup>という。張鎧焜(2015)は、改編本が出た際に、誰がどのように教科書編集をしたのかを、以下のように記している。

「1987年下半年、教育部長が毛高文となったのち、課程は、できるだけ『簡単』で『深いものではない』ものとする主張があった。児童生徒の学業の圧力を軽減するため、国立編訳館は、『適切合理化』の原則で国民小中学の教科書の改訂を進めた」<sup>44</sup>という。「1987年、編集審査委員会の招集者は、当時の国立新竹師範専科顔秉璵校長」で、顔校長は、「1人が前版本の編集者、3人が道德教育の価値を明確にする研究者」で、「郁漢良（1975年版本編集小グループの成員）、歐用生（新竹師範専科学校価値教育実験参与者）、黄建一（新竹師範専科学校価値教育実験参与者）、汪覆維（道德發展教育研究学者）」を委員会に招いた<sup>45</sup>。

新竹師範専科学校関係者が編集審査委員会のほとんどを占めたことから、「1984 - 87年新竹師範専科学校が台湾省政府教育庁の委託を受け、国民小学価値教育実験研究を実施した」影響を、改編本「生活と倫理」の教科書は受けた<sup>46</sup>。「課程のモデルの変化は、人性論上では、人の性は善であることを強調し、彼を信じ、信頼し、責任を負う。社会観上では、批判理論を強調し、対立、衝突を隠さず、反省、批判能力の養成を強化し、社会行動を強化し、社会主義と公道を達成する。知識論上、構造主義を重視し、児童の主体的な学習、判断の習慣、知識生産の能力を養成する」<sup>47</sup>というように、新しい理論、新しい課程モデル、新しい時代ともに「生活と倫理」が改編されたのである。

顔秉璵（1998）は、「教育方法の多様化」に関わり、「課程標準の規定に従い、国民小学道德の教育方法・過程は、活動的な計画、弾性的な運用、本を読む・解釈する以外に、報告・討論・観察・調査・資料収集・表演・実験・モデル的なもの・参観等の方法で、学習過程に動的な変化あるものとした」<sup>48</sup>という。さらに、「児童の行為と生活習慣は、学校教育の成果だけでは不完全」だとして、「国民小学道德教材新版本には、各単元の前1頁に、保護者に対する話を載せた」という<sup>49</sup>。保護者

<sup>41</sup>同上,p.53。

<sup>42</sup>同上,p.42。

<sup>43</sup>張鎧焜「國小生活與倫理教科書德育課程觀之轉變—從64年課程標準本到78年改編本」『教科書研究』第八卷第三期（2015年12月）,p.92。

<sup>44</sup>同上,p.93。謝明昆『道德教學法』心理出版社有限公司,1994年,p.481。

<sup>45</sup>同上,p.94。

<sup>46</sup>同上,p.96。

<sup>47</sup>同上,p.98。

<sup>48</sup>顔秉璵「我國國民小學道德教學新發展趨勢」教育部人文及社會學科教育指導委員會編印『公民與道德教育之趨勢』1998年,p.51。

<sup>49</sup>同上,p.52。

が児童の教育に関わることから、教科書に保護者に対する教育的な姿勢を示したのである。

## 5. 1990 年代の課程標準

### 5.1 1990 年代の変化

1990 年代は、1980 年代前半までとは異なり、社会・政治・経済の変化が大きく見られたという。『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』（2014）には、「1987 年戒嚴令解除宣布後、社会政治經濟各方面では、みな自由開放的な波や趨勢が出現し、教育も例外ではなく、国定統一課程、教育部編集の教科書、一元的な教師養成等の政策はみな批判され、次第に動いていった」<sup>50</sup>と書かれている。「民間の教育改革団体 410 教育改革聯盟が組織され、教育改革組織のために、民衆が街を歩き、四大改革を訴え、政府に圧力をかける」<sup>51</sup>という時代になった。顔秉璵（1998）は、「ここ 10 年で開放政策がとられることで、各方面の民主化の歩みがこれに従い、道德教育の内容もとても多く改められた」<sup>52</sup>と述べている。

具体的には、「過去の権威をもって父母が子女を管理教育した方法は、既に、今日の道德教材では現れず、無条件に父母の管理教育に服従するということは、再び積極的に行うことはなくなった。「男女の両性の間も適当な均衡を持つべきで、小学の道德教材の中で両性が出てくる数は、統計を意識することがさらに重視された」「国家認識に関わる部分が郷土教材に取って代わられる」というもので、顔秉璵（1998）は、「この一切が、本当に民主的なものの定義なのか？」と論じた<sup>53</sup>。台湾における教育改革はこれまでにないものであったことから、教科書にどのような内容を入れるのか、その方向性を決めるのは難しかったのであろう。

1993 年に課程標準が改訂され、「生活と倫理科目を取り消し」、「その代わりに、『道德と健康』科目ができた」<sup>54</sup>。

### 5.2 1994 年国民小学課程標準（1996 年度実施）

「国民小学課程標準実施要点」には、「1993 年の発布で、各学校は 1996 学年度第一学期（1996 年 8 月）から実施した」<sup>55</sup>と書かれている。この課程標準では、「国語、数学、社会、自然、道德と健康、音楽、体育、美劳等 8 科目」があった。「道德と健康」科は、基本的な科目と音楽や体育、美劳（図工）という芸術・体育科目の間にあった。「道德と健康」については、次の 6. で詳しく述べたい。

#### 目標

国民小学教育は、生活教育及び品德教育を中心に、徳、智、体、群、美の五育の均等に発展した活発な児童と健全な国民を養成することを目的とする。

<sup>50</sup>李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）,p.41。

<sup>51</sup>同上,p.42。

<sup>52</sup>顔秉璵「我國國民小學道德教學新發展趨勢」教育部人文及社會學科教育指導委員會編印『公民與道德教育之趨勢』1998 年,p.47。

<sup>53</sup>同上。

<sup>54</sup>同上,p.43。

<sup>55</sup>「1994 年国民小学課程標準」,p.1。

1. 勤勉,まじめ,責任,法を守る品德及び,家,郷,国,世界を愛する気持ちを養成する。
2. 自我を理解し,環境を認識し,社会の変遷に対する適応についての基本的知能を増進させる。
3. 良好な生活習慣を養成し,強健な体を鍛錬し,休みの時間をよく用いて,心身の健康を促進する。
4. 互いに協力する精神を養成し,集団と仲良くする関係を進め,一生懸命社会に服務できるようにする。
5. 審美と創作能力を養成し,生活の中で関心があることをよりよいものとしていく。
6. 主体的に学習,思考,創造,問題解決する能力を啓発する。
7. 価値判断の能力を養成し,楽観的で進取の精神を発達させる<sup>56</sup>。

ほかに,「他の科目の関連する部分との協調」<sup>57</sup>が言われ,「道徳と健康」科のみで教育をするのではなく,学校教育全体において道徳教育を進めた。「道徳と健康課程標準」では,総目標,1-3年の目標,4-6年は「道徳」と「健康」で,それぞれ目標が立てられた。

## 6. 「道徳と健康」科の課程標準

この「道徳と健康」科については,歐用生(1997)が,「日本は,平成元年改定の小学校学習指導要領で,小学校1,2年の自然と社会を整理して『生活』とした」,韓国の小学課程でも,「1975年課程標準で,生活と倫理と健康教育を一緒にし,整理を進めたことで,合科の理想に,さらに一步進んだのではないか?」<sup>58</sup>と,近隣諸国では,小学1,2年に見合った合科が行われていたことから,台湾における実施も必要としたことを述べている。

これまで台湾において,「道徳と健康」科は「訓育」「衛生」の2つの科目として重視された時期があったが,新しく1つの科目となったのである。「道徳と健康」科課程標準改訂委員会が,1990年9月から1991年6月まで実施され,1991年6月に新課程が完成し,1993年9月に正式に公布されたとして,林錦英・黄建一(1997)は,次のように改訂のプロセスを述べている<sup>59</sup>。委員会は,「道徳」と「健康」の課程構造に分け改訂し,委員は「道徳」と「健康」の2組に分かれ,教材・綱要の構造の改訂を進めたという<sup>60</sup>。特に「1-3年の合科の構造は,最後に,『自分自身』『人と人』『人と事物』の層に分けることに依った」ことから,基本的な道徳的価値の内容区分は,日本と一部変わらない。

「道徳と健康」の「道徳」の徳目は,「法を守る,国を愛する,礼節,正義,仁愛,孝敬,勤儉,信実」,「健康」は「成長と教育,個人の衛生,心理衛生,食物栄養,家庭生活と性教育,安全と救急,疾病予

<sup>56</sup>1994年「國民小學課程標準総綱」,p.1。

<sup>57</sup>同上,p.4。

<sup>58</sup>歐用生『『道徳與健康』科新課程理念』林錦英・黄建一・歐用生『道徳與健康新課程の精神與特色』台湾省國民學校教師研習會,1997年,p.26。

<sup>59</sup>林錦英・黄建一「國民小學『道徳與健康』科新課程標準精神與特色」林錦英・黄建一・歐用生『道徳與健康新課程の精神與特色』台湾省國民學校教師研習會,1997年,p.1。

<sup>60</sup>同上,p.2。

防、薬物使用と濫用、消費者の健康、環境衛生と保育」<sup>61</sup>と、「道德」の徳目は、伝統的な道德を中心に選ばれたが、「健康」については現代的な徳目を重視した。

以下が、1994年に公布された「国民小学課程標準総綱」である。「体」は「健康」に、「徳・美」は「道德」に相当するが、「群」は学校においては友達関係・学校生活、「智」は学習をいうのである。これまでの台湾の道德教育からすると、特に新しさはなく、「徳」「体」が「道德と健康」という科目になったのであるが、子どもの発達に対して「徳」のみが重視されるのではなく、「体」も強調されたことが特徴である。当然、五育のすべてが子どもの成長に必要なことは書かれているが、「体」を強調することで、「徳」（従来型の徳目と家族・地域・国・世界を愛する気持ち）も強化したのである。

#### 総目標

1. 規範的な生活と国民の礼儀を実践し、良好な生活習慣を養成する。
2. 正確な倫理観念を建立し、基本的な品德を涵養し、よりよい情操を養成する。
3. 健康についての知識、技能、態度を養成し、心身の健康の基礎を定める。
4. 人間性と生命を尊重する観念を養成し、道德的で健康的な豊かな生活をする。
5. 思考判断能力を増進し、責任を負う行為と態度を養成する<sup>62</sup>。

#### 1－3年の目標

1. 家庭及び学校の規則を遵守し、楽しい家庭生活と学校生活を作る。
2. 安全を重視し、衛生習慣を養成し、心身の健康を促す。
3. 自己を認識し、自己を尊重し、並びに進んで他人を認識し、他人を尊重する。
4. 自然に親しみ、環境を愛護し、自然を鑑賞する能力を養成する<sup>63</sup>。

#### 4－6年「道德」の目標

1. 規範的な生活を実践し、基本的な品德及び良好な習慣を養成し、よりよい情操を育む。
2. 是非を明らかにすること、価値判断能力を養成し、生活と社会問題を解決する。
3. 本国及び外国文化を理解し、愛国的な情操と世界はみな一家という胸襟を養成する。
4. 生命を尊重し、自然を大事にし、崇高な心を養成する<sup>64</sup>。

#### 4－6年「健康」の目標

1. 人体の成長を認識し、個人の衛生と安全を重視し、疾病を予防する。
2. 他の人を尊重することを学習し、心理衛生を重視し、和諧的な両性の関係を建立する。
3. 食物と栄養を理解し、薬物の使用と濫用を分かり、また、智慧のある選択によって健康に関わる消

---

<sup>61</sup>同上。

<sup>62</sup>同上、p.11。

<sup>63</sup>同上、p.12。

<sup>64</sup>同上。

費をすることができる。

4. 環境衛生と保育を知り、汚染を出さないようにし、家庭・学校・地域の健康を促進する<sup>65</sup>。

#### 説明

「国民小学の朝会、週会などの共同活動は、一略一、各校が実際の状況を見て計画する」<sup>66</sup>と、各学校の状況によって計画を立てた。朝会などの時間ではなく、必ず授業を行うことになった。時間配分は、「1-6年は毎週2時間、1時間が40分で、毎週計80分」の授業が行なわれ、「1-3年は合科教育」であった<sup>67</sup>。「道徳と健康」は、全体の時間数の6%程度をかけて行われたが、社会科に比べて時間は少ない。団体・輔導活動・郷土教育活動を合わせて6%程度の時間の教育も行われており、道徳に関連した多様な活動も含めると、相当数、時間を当てていたと思われる。林錦英（1997）は、次のように課程標準の目標・内容等をまとめている<sup>68</sup>。

表2 「道徳と健康」課程標準の総目標と領域

領域	総目標
認知	倫理観念,健康な知識,良好な生活習慣
情意	高尚な情操,健康的な態度,人間性及び生命の観念を尊重,責任を負う態度
技能	健康的な技能,思考判断能力
実践	基本的な品格,道徳及び健康生活,責任を負う行為

出典 林錦英「解讀國小『道徳與健康』科課程標準」台灣省國民學校教師研習會編印『道徳與健康課程與教學研究專輯』第一輯,1997年5月,p.106。

<sup>65</sup>同上,pp.12-13。

<sup>66</sup>同上,p.4。

<sup>67</sup>1994年「国民小学課程標準總綱」,p.13。李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院（2014）,p.44にも、時間数の説明がある。

<sup>68</sup>林錦英「解讀國小『道徳與健康』科課程標準」台灣省國民學校教師研習會編印『道徳與健康課程與教學研究專輯』第一輯,1997年5月,p.106。

図1 合科の構造図

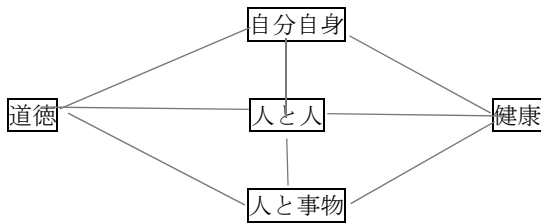
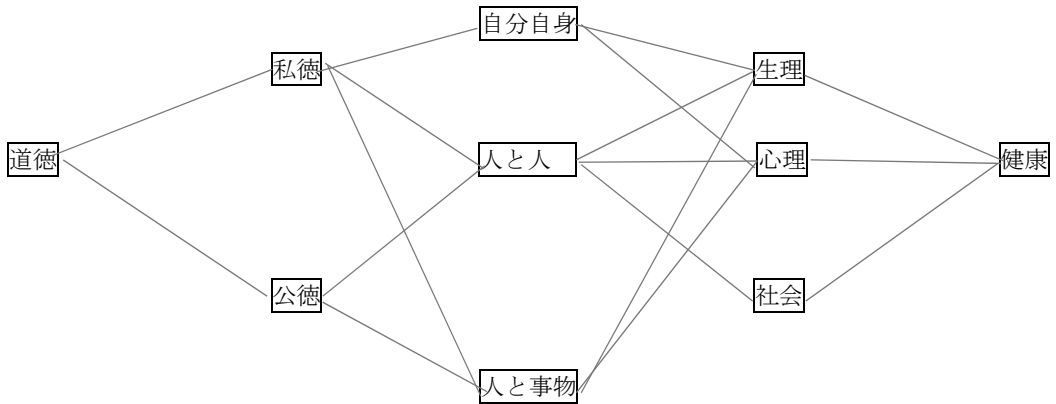


図2 分科の構造図



また、林錦英（1997）は、「道徳と健康」科は1－3年が合科で、4－6年が「分科」で、別々に「道徳と健康」を教えることから、「合科の構造図」「分科の構造図」を上のように示している<sup>69</sup>。

## 7. 「道徳と健康」科の教科書

本稿では、低学年（1－2年）の「道徳と健康」科が、どのように行われるのかについて説明をしていく。

「道徳と健康」科1－2年の内容構造は、「自分自身」、つまり、自分のことを中心とした事柄が多く教えられる。小学入学後に学校生活や人との関わりに慣れつつ、必要な最低限のことを教えているといえるが、国家・国旗については1年上期から教科書にも入っている。

健康については、「食べ物、健康、病気、安全、感覚、ビンロウ・たばこ・酒、運動、汚染」など、生きている人間である限り、小学生としても自分を大事にすることを学ぶのである。

「道徳と健康」科の教科書は1年2冊で、「計12冊あり、1996学年度から、教育部の審査通過後、逐年国民小学の使用に提供する」<sup>70</sup>ものである。教科書の「編者の話」では、「ある行為は良いの

<sup>69</sup>同上,p.107。

<sup>70</sup>國立編譯館『道徳與健康』一年級上學期,1997年8月正式本初版,p.94。



か、ある行為は悪いのか？ 良い行為は多く勉強して、悪い行為は避ける必要がある」「みんなが、本当にそれができれば、一人の楽しい健康的な良い小学生になるよ」<sup>71</sup>と述べている。結局のところ、この教科書は、何をするのが良い行為なのか、それを教えるものであるが、単純に、「良い行為」をすべきだと言うわけではない。

教科書は、「1993 年教育部が公布した国民小学道德と健康課程標準によって編集し、台湾省国民学校教師研修会が道德と健康実験教材を発展させたことにより、審査改訂をしたものである」<sup>72</sup>ので、教師の立場が教科書のなかに現れている。「本冊の教材は、児童の生活経験を中心」「内容は、図絵を主とし、文字の説明を助けることを重点」<sup>73</sup>とし、児童が教科書を読んで内容に関心をもって分かりやすくしたところが、教科書の特徴である。しかし、「教師には適した教育方法を用いることをお願いし、児童が図のなかの間違った行為に対して状況を認識するよう指導し、児童が生活のなかで持続的に反省実践することを励ます」<sup>74</sup>と、児童が誤った行為をした場合、教師が徹底して指導するという面もあったのも事実である。

教科書の編集審査委員会は、専門家と教師が多く招聘され、小グループで教材開発を行い、小グループからの互選で、編集者が決められた。

招聘制で、2 年に一度委員を決めた。本委員会の成員は、主任委員の他、学科の専門家（40%）、課程・心理等の教育学者（10%）、現職教師（35%）、教育メディア製作専門家（5%）、教育行政人員及び本館編集審査人員（10%）等。主任委員は、会議を行うほか、本書の原稿の総修正を担当した。教材の研究開発を進めるため、本員会は、研究開発小グループを設け、委員のなかの専門家の学者と現職教師を組織し、研究開発小グループの招集者に顔秉瑛教授を推薦し、顔秉瑛が会議を行う責任を負った。編者は、小グループの成員から互選し、原稿は編集審査委員会を経て審査・討論・修正後、完成した<sup>75</sup>。

表 3 は、1 年上から 2 年下の教科書の内容であるが、全ての内容を示したものではなく、筆者が特に特徴的なものを選んで掲げた。

表 3 国民小学 1—2 年「道德と健康」科の教科書の内容

1 年上	1 楽しい一日	道で、安全に注意（地図が出ている）。みんなで交通安全。学校で仲良く遊んでいる状況。時計。学校に遅れてはいけない。授業が終わったらすぐに家に帰る。
	2 何かが起こった	ボールの貸し借り、誰が一生懸命？ 勉強を一生懸命している人。学校の中でやっていいのは？ わるいのは？ 廊下で誰がやっているのはよくて、誰がやっているのは悪いのか？

<sup>71</sup>同上,p.3。

<sup>72</sup>同上,p.94。

<sup>73</sup> 同上。

<sup>74</sup> 同上。

<sup>75</sup> 同上、「編後記及謝辞」。

	3 私は、良いことができる	あなたの休んでいる時間と小華の休んでいる時間は一緒か？ご飯はいつもの時間、いつもの量。食卓の礼儀。誕生日会のお祝い。
	4 きれいにしよう	歯を磨く、どの友達が好き？どうして？（普通の格好、汚れた格好）、容姿を清潔にすることは何に注意するの？どうして歯を磨くの？顔を洗う順序、手を洗う順序。私は自分で頭を洗える。私は自分でシャワーを浴びることができる。
	5 自分にケーキを送る	比べてみて、あなたたち何が違うの？赤ちゃんから大きくなる、頭、体の色分け、体の場所、五官はどんな効果があるの？五官で危険を発見したり、傷害を避ける。どのようにすれば安全か？
	6 1枚の写真	小明と彼の家の人。結婚して、子どもができて、赤ちゃんが生まれて、兄弟ができて、学校に行くという絵—家族構成。家族のあり方。自分がどういうところから生まれ育ったのかを理解する。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、兄弟など、自分の家族に誰がいるのかを理解する。一緒にご飯を食べたり、泣いたときに慰めたり、一緒に野球をしたり、掃除をしたり、おばあちゃんと本を読んだり、車で出かける。家族がどういうところで一緒に行動しているのか、自分が家族と一緒に何をしているのかを分かる。
	7 にこにこ挨拶をしましょう	兄弟とどう関わるか、同級生のどのようなところが好きか（授業中話すことが好き、勝手に物を借りる・・・歌を歌うのが好き）。老人を大事にする。
	8 国旗に敬礼をする	国旗掲揚の時はどうすべきか、正確な国旗の色を塗ろう。国旗はどこにあるべきか？
1年下	1 水はまだ流れている	保護者には、児童が公共のものを大事に使用すること、公共の場所を清潔にすることができるよう指導することを願います。汚いトイレ、きれいなトイレ。私はこのトイレが好き（きれいなトイレ）。
	2 大自然と友達になる	保護者には、児童が大自然に多く親しむように連れていき、大自然の愛を享受することを願います。懇丁国家公園、陽明山国家公園、玉山国家公園、太魯閣国家公園
	3 自分を好きになる	保護者に児童が自分を理解し、自分を好きになるよう指導することを願います。どんなことをしているのが好き？「自分」を褒め、楽しい気持ちを持つこと、これが自分を大事にすること。
	4 私が健康であることを助けてくれる人	保護者に、児童が、医療を行う者を理解し、礼儀をもって話すことを注意指導するようお願いする。
	5 みんな一緒に	保護者に、児童の健康に有益な運動をするよう指導し、歯の保健に注意することを願います。半年に一回の歯の検査。一緒におやつを食べて。今どうして歯磨きをするの？食べたら歯を清潔にする必要がある。友達は虫歯が痛い。自分を大事にする、あなたはどのようにできるの？毎日歯を磨く、鏡で歯の状況を検査する。歯の健康にいい食べ物を食べる。歯医者で歯の検査をして、歯を直してもらう。いつも運動をする。

	6 食べることは栄養となり,健康にいいこと	保護者に,児童が健康に有益な食べ物を均衡に摂取するよう指導することをお願いする。私は健康に有益なおやつを食べている。
	7 病気になったらどうするのか	保護者に,児童が病気になったとき自分を大事にすることができる,安全に薬を飲むことのできることを指導するようお願いする。病気の時と健康の時と感覚がどのように違うのか。病気になったらどうするのか?医者,薬,母親が薬を挙げている—これらは何か?病気の時私たちに何を助けてくれるのか?豚さんがウサギさんに薬をもらって,トイレで吐く。
	8 自分を保護する大事にする	保護者に,児童が自分を大事にする,他の人と関わるときの安全に注意するよう指導することをお願いする。中山国小までどのように行くの?車に乗って私に道を教えてくれない?ねえねえ,ジュースをあげるよ。ねえねえ,遊園地に連れて行ってあげるよ。お父さん,今日とても忙しいから,代わりに私が迎えに来たよ。私の体のどの分を,他の人に見せたり触らせたらしらいけないのか?これは私たちの秘密だよ。
2 年 上	1 自分のことをできるようにする	保護者には,児童が衛生面を自分で注意し,良好な習慣を養成する指導をすることをお願いする。毎日の生活で,自分が衛生面で注意することは?あなたは何をすべきか,何のため?良好な生活習慣を維持し,楽しく,健康。
	2 歯が痛まないようにする	保護者に,児童がものを食べたのちすぐに歯を磨くよう指導することをお願いする。2 人のお友達の歯はどうですか?歯を磨いている方はきれい。食べたらず歯を磨かない方は虫歯。みんな歯を清潔に。準備をして下さい。歯ブラシと歯ブラシの持ち方。上の歯,下の歯の歯磨きの順番を教える。
	3 五人の良いお友達	保護者には,児童がいつも五官を大事にするよう分からせ,一生懸命学習するよう指導をお願いする。五官のどの部分を使うのかな?味覚,嗅覚,視覚,触覚,聴覚。どのようにして目を大事にできるのかな?太陽のもとで本を読む,机で適度な距離で本を読む,夜,布団の中で本を読む。
	4 総統は立派である	保護者に,児童が総統を尊敬し,民族の偉人だと仰ぎみるようにさせることをお願いする。総統は私たちのために何をするのか?私たちは総統をどのように尊敬するのか?私たちの現在の総統を認識する。総統の写真を集めて空いている所に貼りましょう。写真の総統は何をしているところか?国歌を歌えますか?彼らは国家社会のためにどんな貢献をしたのか? 国父孫文,孔子。
	5 買い物に行く	保護者に,児童に健康にいい食べ物を選ぶよう指導をお願いする。どのように食べ物を選ぶのか?何のため?それぞれの食べ物には異なる栄養があって体のために助けとなるところが違い,だからいろいろな異なる食べ物を食べる必要があるのか?どの食べ物が五穀類に属するのか?どの食べ物が,牛乳乳製品,卵,豆,魚,肉類に属するのか?
	6 コマーシャルの時間	保護者に,児童が正確なコマーシャルに対する観念を持ち,知識をもって物を買うようにさせることをお願いする。薬の広告。疲れたといううさぎ。私は,コマーシャルで飲むと疲れない飲料があることを知ったよ。コマーシャルの中で私たちが何を知るのか?だけど,全て

		を信じることはできないよ。どのように選んだらいいの？優良品に対する統一表示を参考にすることができるよ。
	7 父母にあいさつをする	保護者に、児童が父母を尊敬し、問題があるとき、父母や家の人に教えを請うよう指導することをお願いする。父母に対してどのように挨拶をするのか？お父さん・お母さんありがとう。
	8 楽しい？	保護者に、児童が適した表現、自分の気持ちを表すよう注意指導をするようお願いをする。みんなで運動をしていてボールが頭にぶつかったり、走って一番になったり、転んだり、失敗をしたり。いやなことが起こった時、どのようにしたらいいのか比較してみよう。髪を引っ張る男の子に。女の子がたたき、泣く、「あなたがやったこと、私はうれしくないよ」と言う。「私はとても怒っているわよ。二度とこんなことしないで」と言う。
	9 あなたがそれをしたら、私は行うわ	保護者に、児童が物を返すという礼儀を学習し、他人のプライバシーを尊重し、自分のプライバシーも保護することを指導するようお願いする。他に人に物を借りた時、どうすべきか？トイレに入るとき、他の人の部屋に入るとき、どうしたらいいのか？人の秘密を話したり、スカートをめくったり、鞆をひっくり返したり、他の人の服を着て見せたり。他の人のプライバシーを尊重することができる？
	10 名誉を大事にする	保護者に、児童が、日常生活で名誉を大事にすることを指導するようお願いする。天使と悪魔。ボールを投げて教壇のコップを割ってしまう。間違いを認めて罰せられるかどうか？悪魔は逃げたほうがいい、天使は、勇気をもって先生に言った方が精神的には安定するよという内容。結局、先生に謝る。
2年下	1 時計の鐘が鳴っている	保護者に、児童が公共の秩序、時間を遵守することができるよう指導をお願いする。
	2 よりよく成長する	保護者に、児童が過度の運動ができ、休息を十分に取、いろいろな異なる食べ物を食べ、いつも正確な姿勢を保つように指導をお願いする。運動の重要性。山に登る、どのような運動が適しているのか、姿勢をちゃんとする（背骨）。
	3 ミツパチとちようちよう	保護者に、児童がものを拾った時、公正に対応すべきことを指導するようお願いする。あなたはどのようにすることができるか？仕事の分配、物を分けるとき、仲の良い友達が間違ったことをしたとき、仲のいい友達がクラスの公共の物を壊したとき。
	4 もう一度試してみよう	保護者に、児童が困難に遭ったとき、勇気をもって試し、困難を克服するよう指導をお願いする。泳げない子どもが、洗面器の水に顔を付けたり、お風呂で泳ぐ練習をして、プールでも泳げるようになった。困難にぶつかったとき。
	5 祥仁の傷	保護者に、児童が自分の傷をどう治したらいいのか、学習するよう指導をお願いする。公園でひっくり返った。家に帰ったら大人がいないので、自分で処理した。手をよく洗って、生理食塩水を傷につけて薬をつけて絆創膏を貼る。ひっかき傷、刺し傷、皮膚が割れる、擦り傷。
	6 私はどうして病	保護者に、児童が自分や環境の衛生面の理解を強化し、必要な時に予防接種をし、感染症を避

	気になったの？	ける,もし病気になったら医師に診せ,公共の場所に入出入りすることをやめるよう指導をお願いします。菌があるケーキを食べる,食中毒,かぜ,結膜炎,水疱瘡。さらに,どのような方法によれば,私たちは病気にしないでいいのか？
	7 たばこ,酒,ビンロウに対して,「だめ」と言う	保護者に,児童が,たばこ,酒,ビンロウの誘惑を拒絶し,正確に薬物を服用することを指導するようお願いします。他の人が吸っているたばこに対して。お酒を飲んで車を運転,ビンロウを食べて歯が真っ黒。薬も飲み過ぎたらいけない。
	8 地球が泣いている	保護者に,児童がいろいろな汚染の原因を理解し,汚染の環境のなかで自分を守ることができるよう指導をお願いします。水の汚染,ごみによる汚染,騒音,大気汚染。
	9 大自然の声	保護者に,児童が生命を大事にし,生活環境を大事にすることを指導するようお願いします。どのような場所が汚染されているか,環境が汚染されると,どのような影響があるのか？人類,動植物,環境の間はどんな関係があるのか？

出典 国立編訳館『道徳と健康』一年級上学期,1997年8月正式本初版,p.94。国立編訳館『道徳と健康』1年下学期,1998年1月初版二刷。国立編訳館『道徳と健康』2年上学期,1997年8月正式本初版。国立編訳館『道徳と健康』2年生下学期,1998年1月正式本初版。

『我國國民中小學德育課程目標與內容之研究』（行政院國家科學委員會專題研究計劃成果報告,1998）は,道徳の教科書が,「道徳的認知（知識・理解・応用・分析・総合・評価）（道徳と関係がない内容）」「道徳的感情（受け入れ・反応・重視・組織化）（道徳と関係がない内容）」「道徳的行動（準備・習慣・創造）（道徳と関係がない内容）」のどの要素にどれだけ分類されるのかを研究している<sup>76</sup>。その結果として,国民小学1上下,2年上「道徳と健康」科の教科書を分析し,「道徳的認知・道徳的感情・道徳的行動」と「道徳と関係がない内容」が半分ずつであることを示している。あえて「道徳教育」と「健康教育」を一緒にした「道徳と健康」科目においても,「道徳教育」と「健康教育」が半分を占めるのではなく,「道徳」と関係がある内容が半分となっている。

「道徳的認知（知識・理解・応用・分析・総合・評価）」については,児童の認知のレベルは,『『応用・理解』が多く,その次が『知識』で,『分析』『評価』は0%』<sup>77</sup>であると論じている。認知的なベースにおいて,児童が,「分析・総合・評価」までいくのは難しいということである。小学1年上から2年の上の教科書の内容では,まずは「知識」,そしてそれをどのように「応用・分析」するのかを重点的に学習し,それ以上の段階まで行くのは困難があるのであろう。

次に,「道徳的感情」では,『『受け入れる』が最も多く,その次が『反応』』<sup>78</sup>と結果が出ていることから,教師の指導によって,児童が「道徳的感情」を受け入れるということになる。低学年ゆえに,教師の適切な指導がないと,「道徳的感情」を持つことに偏りが出てくるであろう。

第三に,「道徳的行動」は,『『準備』が最も多く 26.9%,その次に『習慣』で 23.1%,最も少ない

<sup>76</sup> 國立台灣師範大學公民訓育學系『我國國民中小學德育課程目標與內容之研究』（行政院國家科學委員會專題研究計劃成果報告）1998年7月31日,p.92,表4-2-13。

<sup>77</sup> 同上。

<sup>78</sup> 同上,p.93。

のは『創造』で 0%」<sup>79</sup>という。行動する前の「準備」に多くの時間を割いており、また、生活習慣を身につけるという点で「習慣」が多いと思われる。「創造」が 0%であるのは、習慣化した行動を、自分で考えてさらに高い次元のものにすることから、1.2 年生に行わせるのは難しいためであろう。但昭偉（2002）も、『道德教育—理論・實踐與限制』において、道德教育で実践まで行うのは難しいと述べている<sup>80</sup>。

この『我國國民中小學德育課程目標與內容之研究』では、「個人の道德（生活習慣・品德の修養）」「自分に近い人との道德（主管一部属・父母—子女・兄弟—姉妹・夫—妻・親族の間・教師—生徒・友達の間）」、「道德的感情（地域郷土・団体社会・公共の環境・職業道德・国家民族・世界人類）」に、道德の内容を分けている<sup>81</sup>。道德を、「自分」「自分の身近な人」、「さらに遠い世界」まで、その内容を距離的に分けた場合、国民小学 1,2 年生で、「個人の道德」が 43.3%で、「道德と関係のない内容」が 50%ということであった<sup>82</sup>。つまり、自分に関係すること以外は、ほとんど教えないということである。自分に関する「個人の道德」のうち、生活習慣が 23.1%、品德修養が 19.2%<sup>83</sup>で、生活習慣を身につけたり、道德の基本を教えることが「道德と健康」の中心的な内容になっているのである。

## 8. 「道德と健康」科の評価

「道德と健康」科について、「指導前、指導のなかで、指導後」、「行為習慣」「態度」「知識」「技能」について評価を行うとしている<sup>84</sup>。評価方法は、「1. 児童が自分で評価、2. 児童が相互に評価、3. 保護者の評価、4. 教師の評価」<sup>85</sup>がある。林錦英・黄建一（1997）は、評価の方法として、「児童が相互に評価するのは、歯磨きを例とすると、教師が昼ご飯の後、歯ブラシがある同級生を立たせ、誰が歯ブラシを持っているのかを知らせる」<sup>86</sup>ものだとする。「保護者の評価では、保護者が、連絡帳を利用し、直接、子どもが家で歯磨きをする状況を記録する。連絡帳、電話を利用して、あるいは、学校に行って、教師とコミュニケーションをとり、教師と保護者が、児童の校外あるいは家のなかの状況を理解し、指導を加える」<sup>87</sup>と、保護者が、絶えず子どもの指導に加わることが考えられている。

教師の評価方法は、「1. 観察法、2. 検査法、3. ポートフォリオ評価、4. アンケート法、5. 面談法、6. 測定法（試験）」<sup>88</sup>がある。「1—3 年では、試験は行わないで、観察、話をしたり、子どもの記録から評価する。児童の反省と保護者の評価、教科書のなかの活動の点数も合わせて評価をする」<sup>89</sup>と

<sup>79</sup>同上。

<sup>80</sup>但昭偉『道德教育—理論・實踐與限制』五南圖書出版股份有限公司,2002 年。

<sup>81</sup>國立台灣師範大學公民訓育學系『我國國民中小學德育課程目標與內容之研究』（行政院國家科學委員會專題研究計劃成果報告）1998 年 7 月 31 日,p.94,表 4—2—14。

<sup>82</sup>同上。

<sup>83</sup>同上。

<sup>84</sup>1994 年「國民小學課程標準総綱」,p.49。

<sup>85</sup>同上,p.50。

<sup>86</sup>林錦英・黄建一「道德與健康新課程總說答問」林錦英・黄建一・歐用生『道德與健康新課程的精神與特色』台灣省國民學校教師研習會,1997 年,p.63。

<sup>87</sup>同上。

<sup>88</sup>同上。

<sup>89</sup>同上。

いうものである（林錦英・黄建一, 1997）。

しかし、どこまで「保護者の評価」を反映させるのか、その点については、歐用生（1997）が、「低学年の教科書のなかには、ただ図や保護者への話があるだけ」<sup>90</sup>で、ある部分、教科書が保護者向けであることも述べている。「單元ごとに、後ろに、評価表があるので、まず、子どもが『時間通りに宿題を出したのか』を反省してもらう」「そののち、父母が、子どもが本当に実践したのかどうかを評価する」「保護者が教育評価に参与するということは、保護者に、はっきりと教育評価の記録を理解してもらうことである」<sup>91</sup>と述べ、父母の評価は必要であり、保護者と教師との連携で教育を進めるように教科書が作られていると書いている。

1-3年、4-6年の評価の仕方は異なり、「4-6年の評価結果は点数にし、『道徳』と『健康』は50%ずつを占める」<sup>92</sup>もので、「健康」だけは「試験を行っていい」<sup>93</sup>とされた（歐用生, 1997）。1-3年は、成績が点数化されるのかどうかは明記されていない。ただし「課程標準」において、点数化について書かれていない以上、1-3年は点数化されていなかったであろう。1-3年の子どもの「生活規範と生活習慣」に点数をつけ評価をする意味がないという理解である。

## おわりに

本稿では、戦後すぐの小学から、国民小学における道徳教育について、「課程標準」において、道徳に関わり、どのような変化が見られたのかを論じた。当初は「公民」科、その後、1962年から「公民と道徳」科になり、1968年の九年国民教育の時期になり、「生活と倫理」科となった。すべての児童生徒が国民教育を受けることになった時期に、「生活と倫理」科が作られたのは、生活運動と政治道徳教育の実施が重要視されたためである。1980年代、政治的に緩やかな時代が来て、「生活と倫理」科の考え方にも変化が見られた。

1996年から「道徳と健康」科となり、伝統的な道徳教育のイメージするものではなく、むしろ子どもの発達に沿った道徳教育の必要性を論理的にまとめた科目となった。それまでの「生活と倫理」科に比べると、「道徳と健康」科の方が、より「子ども中心主義」と言えた。しかしながら、従来型の道徳教育のあり方も取り入れられ、方法論などを中心に問題視され、2001年の小中学の九年一貫課程が作られた際は、「生活」科は残るものの、「道徳」は、科目としては残らなかった。教科書があり、その具体的な成果が問われた時代からは大きな隔りがある。

台湾では、「道徳」と「健康」が、伝統的な「徳」「体」として重視されてきたが、「道徳」と「健康」を一緒にしたもの、その効果はあまり評価されなかったといえる。「道徳と健康」科では、政治的な道徳性を薄め、なおかつ低学年の教科書では、「道徳」というよりは、むしろ子どもが基本的に学ぶべき重要なこと、また、自分の体を大事にするということを強調しており、教科書の構成そ

<sup>90</sup>歐用生『『道徳與健康』科新課程理念』林錦英・黄建一・歐用生『道徳與健康新課程的精神與特色』台灣省國民學校教師研習會, 1997年, p. 35。

<sup>91</sup>同上。

<sup>92</sup>同上, p. 51。

<sup>93</sup>同上, p. 50。

のものは特に否定すべきところはなかったと思われる。

ただし、それを用いる教師が、従来型の教育を受けており、「道德と健康」科の意図を踏まえた授業を行うことができなかったと考える。顔秉璵（1998）は、「師範学院の課程や教育を見ると、大部分の課程は、知識を得ることを教育目標の第一にしており」「道德教育の教材教育法は、師範学院の教育課程のなかに含まれるのは難しいのではないかと述べている<sup>94</sup>。林錦英（1997）も、「道德と健康は生活教育科目で、まるで全ての担任教師が、指導が上手であるように見られている」<sup>95</sup>と言いながら、実際は専門性が必要とされ、技術的にもその教授法は難しいものだと言っている。

2004 年以降、この「道德と健康」科は、品德教育に変わる。李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』（2014）は、「単独に品德教育を主とする科目を設置する課程は、2004 年の九年一貫課程全面実施後で終わった。すぐに登場したのが、教育部公布の『品德教育促進方案』であり、転じて、品德教育が各科目に融合し、全面的に学校文化精神を創り出すことを強調することになった」<sup>96</sup>と書いている。「品德教育」は、“character and moral education”の英語訳である<sup>97</sup>。李琪明（2014）も述べているが、「品德教育は復古や教条を否定するものでも、文化の伝統やすでにある貢献を否定するものでもない。しかし、現在、多くの挑戦や多元的な価値に臨む際、自由、民主、専門性、創新を原則とし、現在の品德教育を選択・批判・転化・作り変える。並びに、新しい思惟・観念・行動によって、共同で、公民的素質の根を作り、高めたりすることを推進する」<sup>98</sup>と、品德教育は、これまでの道德教育とは大きく異なることを書いている。

現在の台湾の学校において、道德を重視しないのではなく、伝統的な道德より、新しい概念で社会問題をどのように解決していくのかという教育の取り組みが見られるようになった。その取り組みは積極的に行われており、これまでの「伝統的な道德」「政治的な道德」は客観的に見るべきもので、それは、子どもに教え込むものではないという考え方がなされている。

そのため、台湾の状況を見る限り、「道德」科が必要なのではなく、目の前の子どもに必要な教育を提供する側が、時代とともに変わる新しい概念、例えば人権教育による道德教育をすることが重要だとされる。その概念とは、社会問題をどのように解決するのか、それが問われるものである。当然、国や地方政府がそれぞれテーマを提供しているものがあるが、どちらにせよ、子ども自身が社会に関わることを要求するため、子ども自身の行動が重要視されるというのが、今の台湾の道德教育ともいえる。

<sup>94</sup>顔秉璵「我国国民小学道德教学新發展趨勢」教育部人文及社会学科教育指導委員會編印『公民與道德教育之趨勢』1998 年,p.53。

<sup>95</sup>林錦英「解讀國小『道德與健康』科課程標準」台灣省國民學校教師研習會編印『道德與健康課程與教學研究專輯』第一輯,1997 年 5 月,p.109。

<sup>96</sup>李琪明『品德教育融入十二年國民基本教育課程之研究期末研究報告』國家教育研究院,2014 年,p.1。

<sup>97</sup>同上,p.4。

<sup>98</sup>同上。



本稿は、日本道德教育学会第90回（平成29年度秋季）大会自由研究発表（神戸親和女子大学、平成29年11月19日）において報告した「戦後台湾の国民小学における道德教育」の発表原稿を加筆修正したものである。

科研費学術研究助成基金助成金（研究種目：基盤研究（C）（一般））（課題番号：17K04564）「東アジア儒教圏の道德教育と愛国心教育—日本の「特別の教科道德」を考えるために—」（研究代表者山田美香、平成29年度）に基づいた研究である。